

グローバリゼーションと金融危機

Globalization and Financial Crises

講師 藪 下 史 郎

（早稲田大学政治経済学術院名誉教授）



本講義では、1980年以降のグローバリゼーションと金融システムの不安定化について論じ、その経済的意味を検討する。

1. グローバリゼーションの経済的意味

グローバリゼーションは「世界の経済が統合され、各国の経済圏が地球規模にまで広がること」また「ヒト・モノ・カネが国境を越えて自由に移動すること」などと定義されるが、それは世界的な自由化の波とネオリベラリズムに基づく政策によって推し進められた。グローバリゼーションの背景には、それを積極的に推進したアメリカ政府や国際通貨基金の経済思想と情報通信技術の急速な発展がある。

2. グローバリゼーションとネットワーク外部性

グローバリゼーションは歴史的に特に目新しいことではないが、1980年以降のそれは、その範囲、規模、スピード等において過去のものとは大きく異なっていた。今回のグローバリゼーションは、輸送交通手段の発達のみならず情報通信技術の急速な進歩と結びついていた。加えて、ネオリベラリズムに基づく経済政策の世界的な広がりもグローバリゼーションを加速するように作用した。そこ

には情報通信技術およびネオリベラリズムという経済思想のもつネットワーク外部性という特徴があることを指摘したい。

情報通信技術の発展は通信情報処理の費用を低下させることによって、あらゆる分野での生産効率を高めてきた。ネットワーク外部性は、より多くの人々また組織が情報通信技術を用いるようになると、使用者はさらに多くの便益を受けたり費用を低下させたりすることができる。そのことがさらに参加者を増やすことになり、情報通信技術の使用を加速的に拡大したと考えられる。

ケインズは、政府の政策決定において利益集団よりも経済思想の影響のほうが大きな役割を果たしていると主張した。すなわち、政策や制度改革を決定し推し進める政治家や役人が影響を受けてきた経済思想が実際の政策に影響を及ぼすのである。経済思想にもネットワーク外部性がある。一つの考え方の下に政策提言を行ったとき、同じ考え方を持つ人の数が多くなればそれだけ社会的に受け入れられやすくなる。またそうした考えに共感する人が多くなると、政策提言の社会的影響力も大きくなる。ネットワーク外部性はバンドワゴン効果をもち、一つの経済思想が社会において支配的になると、さらに多くの同調者を集めることになり社会的により強固になる。ネオリベラリズムもグローバル化によって、経済思想として国境を越えて世界的に流行し、各国がそうした考え方に基づく政策を加速的に採用してきたのである。

3. 金融自由化と金融危機

1980年前後からアメリカなど西欧諸国で積極的に進められてきた金融の自由化・規制緩和策の下で、それまで比較的安定していた金融システムの不安定化が顕著になり、またグローバリゼーションが世界的金融危機の要因の一つになったと指摘されている。

金融市場の機能は、生産性の低い個人から生産性の高い企業などに資金を円滑に融通することによって、資金の貸し手にも借り手にも利益をもたらすとともに、経済全体の生産性を高めることである。しかし現実の資金市場では必ずしも円滑に機能しないかもしれない。借り手企業が約束通り資金を返済するとは限らない。投資計画には一般的にリスクが伴い、将来収益は不確実であるためである。債務不履行の可能性がある場合には、個人投資家はリスクを避けようとするため資金供給を行わなくなり、企業の資金調達が難しくなる。

金融取引においては情報の非対称性が重要であり、資金の貸し手は、借り手の企業が信頼できる相手であるのか、約束通り資金の返済を行うかどうかについて不確かである場合が多い。そうした不完全情報の下では金利が高くなると、確実に資金を返済する健全な借り手にとって資金コストが高くなるため、借入を止めるかもしれない。また借り手は、金利が上昇するとより高い収益をもたらすプロジェクトに投資しようとするかもしれないが、そうした投資プロジェクトはリスクが大きい。これらは逆選択とモラルハザードの問題である。これが金融危機の一因となる。

スティグリッツらは、銀行の過剰なリスク・テイキングの原因を規制緩和や金融自由化によって銀行がそれまで享受していたレントが消失したことに求めた。すなわち、銀行規制が厳しい時代に

は銀行はさまざまな規制の下にあったが、逆に他の金融機関との競争から保護されてきた。しかし金融自由化は銀行と他の金融機関との垣根を低くしたため、金利や金融商品における競争が激しくなり、銀行の享受してきたレントが大幅に減少した。銀行経営者にとってはプルーデントな経営を行う意味がなくなったため、リスクの大きな投資計画によって高収益を得ようとした。このことが金融危機をもたらしたとするのである。

今後もグローバリゼーションが進展し、世界経済および金融市場の相互依存関係はさらに密接になるであろう。こうした状況の下では世界的な金融危機が再び起きることを避けることはできない。したがって急速に進むグローバリゼーションの下では新たな国内のみならず国際的な金融制度の確立が不可欠になると考えられる。

本講義の詳細な議論については、拙著『スティグリッツの経済学「見えざる手」など存在しない』（東洋経済新報社、2013年）を参照されたい。

平成26年11月21日(金) 於 図書館ホール